

ほっとサロン虹にじ

通信

2019.10.18

がん患者さんやご家族の皆様が病気や暮らしなど気になること、
相談したいことなど、お話ができる場です。

今回のテーマ

『臨床宗教師のご紹介』

～臨床宗教師と話してみよう～

記：心理療法士 芥川 亘 MSW 鈴木 友貴



講師：臨床宗教師
梶野 統胤先生

今回のがんサロンは、山口県内の緩和ケア病棟や遺族会、がんサロン等で活動されている臨床宗教師の梶野統胤先生にお越しいただきました。

臨床宗教師とはどういうものなのか、また梶野先生が活動を始められたきっかけや、どのような場で活動されているのかなどについてお話いただきました。

日本臨床宗教師会は 2016 年に発足し、現在では臨床宗教師が全国に約 300 名程度、中国地方（5 県）に 16 名いるそうです。まだ人数が多くないこともあり、臨床宗教師という言葉聞いたことがない方も多いかも知れません。

臨床宗教師は「公共空間で心のケアを提供する宗教家」と言われています。梶野先生は僧侶をされていますが、臨床宗教師として活動をしている時には布教活動は行なわず、環境や求められていることに応じて、他の専門職や団体と協力しながら心のケアの提供を行ないます。実際に医療機関だけでなく、被災地における仮設団地などのコミュニティのない場所での傾聴活動なども行なわれていました。相談内容も、価値観や生き方など宗教と関連するようなこともあれば、世間話やちょっとした相談事まで幅広くあるとのことでした。

ほっとサロン虹に臨床宗教師の先生をお呼びするのは初めての試みでした。「死生観というのは、死（逝き方）を見つめることで、どう生きるか（生き方）を考えることである」という梶野先生の語りがとても印象的でした。普段から宗教家として多くの死と向き合っていた梶野先生だからこそ、今を生きることを大切にされているのだと感じました。

今回、どれくらいの方が参加してくださるのか不安がありましたが、講義内容に興味を持って下さった方が多く、患者さん、ご家族合わせて最近では参加者が多いサロンになりました。



独立行政法人 国立病院機構

岩国医療センター

【お問合せ先】 地域医療連携室 0827-35-5645